



[果樹部門]

[農業研究所ホームページへ](#)

4. 樹勢が低下した「おかやま夢白桃」の樹勢を向上させる土壌管理方法

[要約]

樹勢が低下した「おかやま夢白桃」に秋の部分深耕と春の窒素追肥を毎年続けると、2年目以降に葉が大きくなり、樹勢が向上し、果実の成熟早期化が解消される。

[担当] 岡山県農林水産総合センター農業研究所 環境研究室、果樹研究室

[連絡先] 電話 086-955-0532

[分類] 情報

[背景・ねらい]

「おかやま夢白桃」は通常、「清水白桃」の約7日後に成熟するが、樹勢が低下した場合には成熟期が早まり、「清水白桃」の成熟期と重なるだけでなく、果実の肥大が不良になることが問題になっている。樹勢が低下した「おかやま夢白桃」の根域は浅いため、葉の栄養状態が悪ることが明らかになっている。そこで、低下した樹勢を向上させる土壌管理方法を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 落葉後に、樹冠内の2か所（主幹から2m離す）を約1m四方、深さ50cm程度まで深耕する。そして、深耕した体積の約2割（100L）の牛ふん堆肥と約1割（50L）のピートモスを混ぜ合わせて埋め戻す。なお、翌秋以降も行う場合は、深耕する位置を変えて実施する。
2. 開花前に、10a当たり窒素成分で2～3kgを樹冠下に施肥する。
3. 樹勢を向上させる土壌管理を開始した1年目には効果は判然としないが、2年目になると葉が大きくなるなど栄養状態が改善する（図1）。樹勢が向上した樹では、成熟の早期化は認められず、果実品質に対する影響は認められない（表1）。

[成果の活用面・留意点]

1. 「おかやま夢白桃」の樹勢の評価指標をもとに、弱勢の傾向が認められるようであれば、樹勢を向上させる土壌管理を毎年行う。
2. 本試験では秋の部分深耕は11月に行ったが、10～11月が適期である。同様に、春の窒素追肥は3月中下旬に硝酸加里で行ったが、硫安や尿素を用いても良い。後者の場合、遅効きを避けるため、施用時期はこれより遅くならないようにする。
3. 樹園地において、弱勢で成熟が早期化している樹に対して行った結果である。水田転換園で排水性等の物理性が不良な場合には、はじめに物理性の改善を行う。



[具体的データ]

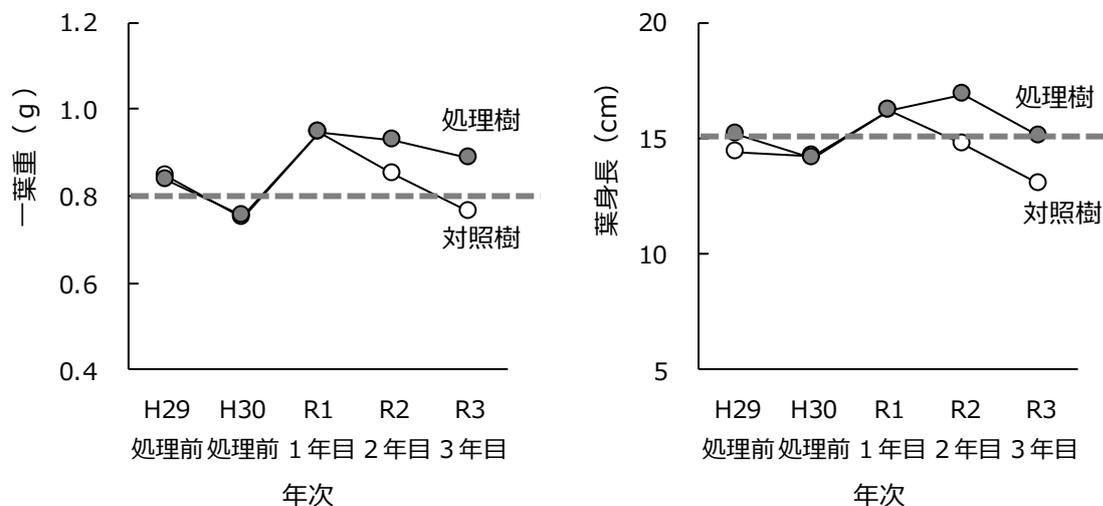


図1 「おかやま夢白桃」の葉の栄養状態の推移（図中破線は樹勢判断指標を示す）

表1 樹勢を向上させる土壌管理^wが平均収穫日と果実品質に及ぼす影響

年次と処理	調査樹	平均 収穫日	果実重 (g)	糖度 (Brix)	果皮 ^{oD} フィル計値	核割れ		裂皮 ^y 0~5
						程度 ^x	果実割合(%)	
平成30年 (処理前)	「清水白桃」無処理樹	7月26日	230	15.6	18.2	0.7	60	0.1
	「おかやま夢白桃」対照樹	8月5日	310	15.9	36.3	0.4	35	0.4
	「おかやま夢白桃」処理樹	7月30日 ^z	315	14.8	30.1	0.7	50	0.9
令和3年 (処理3年目)	「清水白桃」無処理樹	7月17日	430	14.2	34.6	1.3	100	3.5
	「おかやま夢白桃」対照樹	7月28日	289	16.4	33.9	0.5	53	1.6
	「おかやま夢白桃」処理樹	7月28日	349	16.3	29.3	0.4	40	1.5

^z 弱勢なため成熟の早期化が認められる

^x 核割れの程度：0 無、1 核割れ、2 変形

^y 裂皮：0 無、1 微、2 少、3 中、4 多、5 裂果

^w 平成30年の落葉後から処理を実施

[その他]

研究課題名：樹勢の客観的評価に基づく「おかやま夢白桃」の安定生産技術の確立

予算区分・研究期間：県単・平29~令3年度

研究担当者：大家理哉、寺地紘哉、石井恵、樋野友之、河村美菜子、佐々木郁哉、荒木有朋

関連情報等：1) 試験研究主要成果、[平23 \(17-18\)](#)、令2 ([17-18](#)、[19-20](#))